

# 神代

- ① 天照大神  
 めて天皇陛下の御祖先の天照大神は、伊勢の皇大神宮を初
- ② 手力男命  
 ・場の村社神明社、その他多くの神社に合祀してある。手力雄尊を
- ③ 伊弉諾尊  
 と祀りしである。伊弉冉尊。此の二神は天照大神の初め、初めて我國をおつ
- ④ 宇氣母智  
 神である。本村では前野の村社白山神社にお祀りしてある。りなり、天照大神を初め澤山の神々をお産み下さった方
- ⑤ 木花開耶姫  
 祀りし、本村でも、多くの神社に合祀してある。の外、農業國の我が國では、所々に稲荷神社を建ててお
- 二神加納の吉日神社にお祀りしてある大山咋神に、この  
 大變お美しいた方であつたので、天孫瓊々杵尊の妃に御立

# 大和時代

⑥ 素戔嗚尊  
 ちになつた。西市場の神明神社内の富士神社、岩地の諏訪神社内の子守神社には、姉の石長姫をお祀りしてあり、長塚の村社村上神社には、姉の石長姫をお祀りしてある。

⑦ 大國主尊  
 社を初め多くの御弟素戔嗚尊は、山後と前野の村社八幡神社を初め多くの御子大國主尊は、西市場の無格社金比羅神社を初め多くの神社にお祀りしてあつたが、今は神明神社に合祀してある。此の他村内の多くの神社に合祀してある。

⑧ 事代主尊  
 ある。大國主尊の御子事代主尊は、昔西市場に市があつた頃、市場の神として市神社にお祀りしてあつたが、今は神明神社に合祀してある。此の他村内の多くの神社に合祀してある。

⑨ 建御名方尊  
 事代主尊の御弟建御名方尊がお祀りしてある。

① 伊久良河宮跡 崇神天皇の皇女倭姫命は、三種神器をお祀りするにふさわしいところを訪ねて、大和の笠縫村から畿内

② 神宮の御

③ 弟彦公の

④ 伊吹の賊

⑤ 美濃國造

各地を巡り給うたが、良い地がなく、遂に美濃國本巢川  
 崎村に倉に伊久良河宮を建て、奉安し給ふことと  
 さら尋ねて五十鈴川の聖地に永久に齋祀し給ふことと  
 なつた。此處を伊久良河宮と云ひ、倭姫命をお祀りした  
 天神神社がある。御造營の御用材は、太古より一定の御料  
 杣山伊勢大廟御造營の御用材は、太古より一定の御料  
 林から精選してお用ひになり、室町時代からは、美濃山  
 へ木曾山へを御指定になつて、恵那郡の加子母村、長野縣の御  
 四年の式年遷宮の時、恵那郡の加子母村、長野縣の御  
 料林から御採用になつた。お出かけになると、弓の  
 従軍日本武尊は熊襲征伐にお出かけになると、弓の  
 上手な者を伴れて行かうと思召して、お尋ねになると、弓の  
 美濃國に弟彦公が居た。彼は尊に從つて九州へ行つて功  
 を立てた。退治日本武尊は蝦夷征伐の歸路、信濃から東濃を経て  
 熱田にお着きになつた。そして、宮簀姫の御許にばら  
 く御滞在になつた。此處で伊吹の賊のゐることを聞召し、  
 墨俣、府中を通つて伊吹山の賊をお討ちになつたが、途  
 中病におかかになり、退いて大和へ向かはせられる途  
 中遂に伊勢の國でおかくなり、退いて大和へ向かはせられる途  
 の建置神武天皇以後、代々皇威の及んだ國には、國造  
 をおいてお治めになつた。美濃の國に、皇威の漸く輝く  
 様になつたのは、大體此時代からである。當時美濃は、

⑧ 那加村の  
 るは之発古ゐおき 近此も神代はお奈が方ぞ義に前  
 。西に掘墳るそく有くのの社に祀波、れ郡は國、  
 那濃よす。ら整有名には方ある岩八かし社務初初(開後  
 加かつると琴塚の景行天の事から貴族の墓とき思はれうといはれて  
 村らてと大の塚の行天皇の頃、に造られたものだらうといはれて、  
 に東太古昔の人の使つてゐる。古墳と色々物が出る。古墳を  
 も濃古の人人の使つてゐる。古墳と色々物が出る。古墳を  
 いにか達の平生活を知らる事が出た。古墳を  
 つかあ野と山地の間に掘り尽くさ  
 る。西に掘墳るそく有くのの社に祀波、れ郡は國、  
 那濃よす。ら整有名には方ある岩八かし社務初初(開後  
 加かつると琴塚の景行天の事から貴族の墓とき思はれうといはれて、  
 村らてと大の塚の行天皇の頃、に造られたものだらうといはれて、  
 に東太古昔の人人の使つてゐる。古墳と色々物が出る。古墳を  
 も濃古の人の使つてゐる。古墳と色々物が出る。古墳を  
 いにか達の平生活を知らる事が出た。古墳を  
 つかあ野と山地の間に掘り尽くさ

⑦ 琴塚  
 るは之発古ゐおき 近此も神代はお奈が方ぞ義に前  
 。西に掘墳るそく有くのの社に祀波、れ郡は國、  
 那濃よす。ら整有名には方ある岩八かし社務初初(開後  
 加かつると琴塚の景行天の事から貴族の墓とき思はれうといはれて、  
 村らてと大の塚の行天皇の頃、に造られたものだらうといはれて、  
 に東太古昔の人の使つてゐる。古墳と色々物が出る。古墳を  
 も濃古の人の使つてゐる。古墳と色々物が出る。古墳を  
 いにか達の平生活を知らる事が出た。古墳を  
 つかあ野と山地の間に掘り尽くさ

⑥ 伊波乃西  
 るは之発古ゐおき 近此も神代はお奈が方ぞ義に前  
 。西に掘墳るそく有くのの社に祀波、れ郡は國、  
 那濃よす。ら整有名には方ある岩八かし社務初初(開後  
 加かつると琴塚の景行天の事から貴族の墓とき思はれうといはれて、  
 村らてと大の塚の行天皇の頃、に造られたものだらうといはれて、  
 に東太古昔の人の使つてゐる。古墳と色々物が出る。古墳を  
 も濃古の人の使つてゐる。古墳と色々物が出る。古墳を  
 いにか達の平生活を知らる事が出た。古墳を  
 つかあ野と山地の間に掘り尽くさ

⑨ 柄山  
今残つてゐる有名な柄山である。學校の土器は、農  
場を開墾した時、發掘されたものである。古墳の型には、圓墳、前方後圓墳、方墳、上圓下方墳  
などがあるが、柄山や琴塚は前方後圓墳で、此の型の古墳  
墳には多く、身分の高い方が葬つてある。柄山は又瓦山  
ともいふが、それは奈良時代に塚の東南方で瓦を焼いて  
いたからである。今も柄山から瓦の破片が澤山出る。

⑩ 應神天皇  
と八幡神社應神天皇は、御母神功皇后の御胎内にあつ  
て、お生れにならぬ中から三韓征伐を遊ばされた武勇  
なお方だといふので、所々の八幡神社にお祀りしてある。

⑪ 蘇原の由  
山後と前野の村社八幡神社及び山後の無格社奥之院神社  
には天皇がお祀りしてある。藤原鎌足と共に中大兄皇子に仕へて  
來た大化の新政に、蘇我石川麻呂といふ人が蘇原といつ  
手柄を立てた人にて、蘇我の役となつて來てゐたので、此邊を元蘇原といつ

⑫ 不破の関  
うである。蘇原の加佐美神社には此の石川麻呂がお祀り  
してある。云ふことである。箱根、平安時代の白河、勿來  
関所である有名な徳川時代の伊勢の鈴鹿、越前の愛發、美  
であるが、それ以前では、三關は、天武天皇が東國の賊に

⑬ 濃飛の國  
備へて設けなかつたものである。天武天皇が東國の賊に  
大化の新政で、豪族の私有してゐた土地人民を公地

⑭  
那  
加  
村  
の

公 民 と し、 國 司 郡 司 の 制 を 定 め て お 治 め に な っ た。 國 司  
の 飛 騨 の 國 府 は、 高 山 市 の 岡 本 に あ っ た。 破 郡 の 府。 中 國 村  
に、 籍 始 め 大 宝 律 令 で 班 田 收 受 の 法 が 定 ま る と、 諸 國 に  
戸 籍 の 始 め 大 宝 律 令 で 班 田 收 受 の 法 が 定 ま る と、 諸 國 に  
命 じ 戸 籍 を 作 ら せ な さ っ た。 此 の 頃 出 来 た 戸 籍 の 一 年 一 部  
分 が 奈 良 郡 の 正 倉 院 に 残 っ て 有 る。 之 が 那 加 村 の 一 番 古 い 戸  
籍 だ。 各 々 郡 中 里 の 戸 籍 が 有 る。 之 が 那 加 村 の 一 番 古 い 戸